

2022年1月25日

2021年度聖路加国際大学大学院看護学研究科課題研究

企業における働く女性へのプレコンセプションケアに関する健康教育の可能性

—看護職へのインタビュー調査—

Potential Supports for Preconception care for Working Women in Companies

-Interviews with Nursing Professionals-

20MW007

金川桃子

## 要旨

### I. 研究目的

近年、日本では女性の社会進出が進んでいる。そうした中で企業における就業女性の健康支援において特にニーズが高いのは、女性特有の健康問題であると考えられる。企業で働く看護職を対象にインタビューを行い、働く生殖期における女性へのプレコンセプションケアに関する健康教育・相談の現状について明らかにすることを目的とした。

### II. 方法

研究デザインは、質的記述研究である。研究対象者は、女性の活躍を積極的に行なっている企業(なでしこ銘柄等の選定)において、健康管理を行う看護職とした。プレコンセプションケアに関する健康教育および個別相談の現状と課題を明らかにするために、Web会議システムを用いて60分程度の半構成的インタビューを行った。分析は、企業ごとに、現状と課題を抽出し、意味内容でカテゴリ化した。本研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(21-A067)。

### III. 結果

3企業で働く看護職3名にインタビューを行った。その結果、企業における働く女性へのプレコンセプションケアの健康教育の現状として、A社では産業医による女性の健康に関する講義動画配信などを実施しており、勤務形態による集団教育の困難などが課題であった。B社では30代を対象とした女性特有の健康問題についての教育などを実施しており、上司が男性であることによる女性社員のセミナーの受講が困難であることなどが課題であった。C社では毎月健康通信を用いた食生活に関する健康教育などを実施しており、健康教育を行う時間の確保不足などが課題であった。プレコンセプションケアの個別相談は、A社では婦人科の主治医を持つことへの推進などを実施しており、女性社員の月経異常に対する認識不足などが課題であった。B社では新人面談でプレコンセプションケアに関する情報提供などを実施しており、男性上司が多いため月経や生理休暇についての敷居が高いことが課題であった。C社では、食生活についての教育などを実施していた。

### IV. 結論

企業においてプレコンセプションケアという概念での健康教育は実施されていないが、プレコンセプションケアの内容を健康教育や個別相談にて、一部実施していることが明らかになった。今後は、企業で現在行われていないプレコンセプションケアの項目を現在ある事業に加えるなど工夫して実施していく必要がある。